

教育実習、お疲れさま。現在も実習中という人*います*、終わった人に感想を聞くと、全員*「ますます教員になりたいな」と話しています。よく頑張った証拠ですね。1次試験まで約2週間です。さつと実習先の生徒たち*心の支えになってくれることでしょう。試験会場に生徒の感想を持参すると元気*出ますよ。また、これまでの練習論文も持参してください。自信*出ますよ。私*が教員採用試験の指導を始めて6年になります*、今年の4年生*が一番多く論文を書いています。練習では、既に合格ラインに達している人*がたくさんいます。是非、自信をもって、本番でその実力を発揮してください！



★ 今回のテーマは、「合格論文の書き方総まとめ」です。合格論文の書き方講習や添削されたことをよく思い出してください。当日、納得できる論文が書けるでしょう。

1 問題のキーワード (間違いなく見付けること！)

- ◆ 問題文*からキーワードを見付けるのは慎重に！特に、事例問題の場合はキーワード*が複数あること*があります。見付けた段階で、どのように2つの柱に分けるの*まで考えてください。
例：「主体的・対話的で深い学び」「他者を思いやる心と社会貢献の精神の育成」

2 前文 (問題に正対することが絶対条件！)

- ◆ 前文の構成は、次の3段階です。
 - ① 問題のキーワードがなぜ重要なのかを述べる。
 - ② しかし残念ながら、現状は、.....(負の現状を書く)
 - ③ 私は、中学校(高等学校)理科(数学科)教員として、学習指導(柱1)と開かれた学校づくり(柱2)の視点から、○○(問題のキーワード)を育成する(実現する)。
- ◆ 「生きる力」「教員の資質」など、中身*がたくさんあるキーワードの場合は、自分に都合のいい内容に絞って書く。
例：○私は、生きる力の中でも、思考力・判断力・表現力(他者を思いやる心)が極めて重要と考える。
○私は、教員の資質のうち、授業力と生徒理解力が特に重要と考える。
- ◆ 上記②では、文科省の調査や国際調査等の結果でもよい*、教育実習のときなどの生徒の様子を書く方が、どんな問題にも対応できる。また、否定的なことを断定的に書かない。
- ◆ 上記③は、校種や教科など、自分に合ったフォーマット(書き方)を用意してください。
- ◆ 上記の内容*が書いてあれば、前文の行数は少ない方*、柱以下*が書きやすい。

3 柱 (柱の中で「あなたの考え」に当たるのは「論」だけ。それ以外では考えを書かない。)

(1) 柱の文言

- ◆ 柱は新聞の見出しに当たるものなので、必ず短く体言止めで書く。
- ◆ 柱は、内容*がふつてはいけない。(学校行事、学級経営、部活動、生徒会活動 → どれも特別活動でOK)
- ◆ 柱を3つ用意しておき、そのうちの2つを使う。(学習指導、開かれた学校づくり、特別活動)
- ◆ 柱の文言には細かいことは書かない。具体的なことは、「策」で書く。
よくない例：●理科の実験を通じた主体的に取り組む態度の育成 → 「策」が、理科の実験1つしか書けない。
●他者を思いやる心を育てるための部活動の充実 → 部活動だけで策を2つ書ければよいが・・・
●主体的・対話的な学びのためのICT機器の活用 → ICT機器の活用は、「策」で書くこと。

よい例：○主体的に取り組む態度を育成するための学習指導の工夫

- 他者を思いやる心を育てる学習指導の工夫
- 基本的な生活習慣を養う学級経営の充実
- いじめをなくすための学級経営の充実
- 社会に貢献する精神を養う特別活動の活性化
- チーム学校を実現するための開かれた学校づくりの推進
- 深い学びを実現する開かれた学校づくりの推進
- 学ぶことの意義を実感させる開かれた学校づくりの推進



(2)論

- ◆ 論では、問題のキーワードと柱の文言との関係を1行～2行(35文字～70文字)で書く。
- ◆ できれば、論では勢いのある表現を使いたい。

例：○授業は、主体的に取り組む態度を育成する上で最適の場面である。
○学校行事は、社会貢献の精神を育む絶好の機会である。
○日々の授業の中で友達と学び合うことで、他者を思いやる心は育つ。
○授業は、教員の生命線である。授業力向上こそ、教員の資質向上に直結する。
○授業は学校の根幹であり、チーム学校の中心である。
○学級は、社会の縮図であり、基本的な生活習慣を養う最適の場である。
○生徒は、学校だけで育つわけではなく、地域や社会の中で大きく育つ。

(3)例

- ◆ 「策1」の前振りとして自らの体験を簡潔に書く。長くなりすぎないで要注意！長くても100字以内で。
- ◆ 柱ごとに、どんな問題にも使える「例」を用意しておく。教育実習、学生時代、生徒時代などの体験。
- ◆ ここで大切なことは、問題のキーワードに寄せて書くこと！体験自体は同じでよいから、文末を変える。

例：○私は、教育実習でICT機器を活用して生徒が学び合いをしている姿を見た。そこで、ICT機器の活用は、主体的な学びに極めて有効であると学んだ。この体験から私は、・・・・・・(「主体的な学びの」策1)
○私は、教育実習でICT機器を活用して生徒が学び合いをしている姿を見た。そこで、グループ学習は他者を思いやる心に育成に極めて有効であると学んだ。この体験から私は、・・・・・・(「他者を思いやる心」の策1)

(4)策

- ◆ この論文で最も問われる部分。具体的で実行可能な方策を必ず2つ書く。1つでは足りない。

例：○グループ学習やペア学習を実施して学び合いをさせ、他者を思いやる心を育てる。
○授業にICT機器を活用し、主体的で対話的な学びをさせる。
○単元に1回以上(理科の)実験を行い、体験を通して学ぶ授業を実現する。
○日常生活に関連した教材を用いて、生徒に学ぶ意義を感じさせる。
○授業中に人権侵害の発言があった場合は、毅然として厳しく指導する。
○毎朝校門に立ち、挨拶運動、遅刻指導、身だしなみ指導を行い、基本的な生活習慣の定着を図る。
○「身だしなみ週間」「遅刻防止週間」を設定し、生徒会の生徒と一緒に徹底を図る。
○「家庭学習ノート」に家庭での様子を記入させ、家庭との連携を図る。
○ロールプレイングを通して、他者を思いやる心を育てる。
○部活動で、生徒主体のミーティングや運営を行わせ、主体性を養う。
○生徒と共に地域清掃ボランティアに参加し、社会貢献の精神を育てる。
○家庭や地域から講師を招いて講演会(シンポジウム、交流会)を開き、教員の資質向上を図る。
○学校の様子を学級通信に書いたり、学校公開を実施したりして、家庭や地域との連携を図る。
○近隣の小中学校と連携し、生徒を学習ボランティアとして派遣する。[開かれた学校づくり]
○スクール・ソーシャル・ワーカーと連携し、生徒理解を図る。[チーム学校]
○研修センターの研修会や教科の研究会に参加し、指導法等について研修する。[教員の資質向上]



- ◆ 策は、柱を超えて使用してよい。

例：○授業で地域の自然観察を行い、深い学びを実現する。(学習指導+開かれた学校づくり)
○学校行事として生徒を地域清掃ボランティアに参加させる。(特別活動+開かれた学校づくり)
○授業の開始時に厳しく出欠を取り、挨拶や提出物の期限を徹底し、基本的な生活習慣の定着を図る。

- ◆ 問題文、「生徒に〇〇を育てる」という生徒に関するのではなく、「教員の資質向上」「理想の教師像」などの教師論に関する問題の場合は、「～を通して教員の資質向上を図る」と文末を変化させる。

例：○授業にICT機器を活用し、主体的で対話的な学びをさせる。(生徒)
○授業にICT機器を活用し、主体的で対話的な学びをさせることを通じて教員の授業力向上を図る。(教師)

(5)価値付け

- ◆ 1000字の東京都は必ず、800字の自治体でも書いた文字数に余裕があれば書いた方がよい。これにより、問題のキーワードに寄せることができるから。600字の川崎市などは書く余裕がないから不要。

4 まとめ

- ◆ 「まとめ」に必要な条件は、次の4つ。①教師としての夢を語っている。②問題のキーワードが入っている。③柱の文言が入っている。④教師としての決意が書かれている。自分なりの「まとめ」を用意しておこう。

★ **君たちの論文の実力は、相当上がっています。自信をもって試験に臨んでください。期待しています！**

★ **論文試験が終わったら、必ず3日以内にワードで復元答案を書いて、問題文と一緒にメールで送ってください。**